平成三十年度　群馬大学教育学部　推薦入試問題

国語専攻

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題に落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合は申し出てください。
3. 受験番号は解答用紙の所定の欄に必ず記入してください。
4. 問題冊子、下書用紙は持ち帰ってください。

平成三十年度　群馬大学教育学部国語専攻　推薦入試問題

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

コミュニケーションとは何か？　コミュニケーションという言葉は私たちの日常にすっかり溶け込んでいる言葉なので、それがどんなことを指すのか、たいていの人は知っている。しかし、あらためて何かと問われると、どうだろう？

実際に聞いてみると、「情報伝達」「意思の疎通」「会話」「理解し合うこと」「気持ちが通じること」などなど、いろいろな答えが返ってくる。

国語辞典にはどのように書いてあるか？　よく知られている国語辞典のひとつには、次のように書いてある。「①社会生活を営む人間の間に行われる知覚・感情・思考の伝達。言語・文字その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒介とする。（以下略）」（『広辞苑』第五版）。

うーん、この辞書では「伝達」となっていて、「理解し合う」などは含まれるのか含まれないのか、はっきりしない。

では、コミュニケーション研究の専門家たちはどう定義しているだろうか。※F・ダンスとC・ラーソンがコミュニケーション関係の文献を調査したところ、何と、一二六の定義がみつかった。そのなかから、三つを。（訳は著者）

「コミュニケーションとは、意味を追求する努力であり、人間による創造的な行為である。その行為において、人間は手掛かりを弁別・組織化し、環境において自己を方向づけ、かつ変化する自己の欲求を満たそうとするのである」

「言葉のコミュニケーションは、世界から意味を導き出し、それを他者と共有しようとする人間的過程である」

「コミュニケーションとは、情報、考え、感情、スキルなどを、シンボルを使用して伝達することである」

これは一九七〇年代の調査であるが、その後定義が増えている可能性はあっても、減っている可能性は考えにくい。

なぜ、こんなに定義がいろいろ出されるのか？　それは、コミュニケーションが多様な面を含む複雑な過程であるからに他ならない。それをまとめたかたちで定義することは難しい。だから、どうしても、定義する人がどの面に注目するか、どの面を重視するかによって、定義がちがってくるのである。

（伊藤　進『〈聞く力〉を鍛える』講談社現代新書　二〇〇八　七二－七四頁）

（注）※F・ダンスとC・ラーソン　アメリカのコミュニケーション研究者

問　本文をふまえ、言葉によるコミュニケーションを一〇〇字程度で定義しなさい。その上で、どのような面を重視したからか、理由を説明しなさい。字数は併せて四〇〇字以内とする。